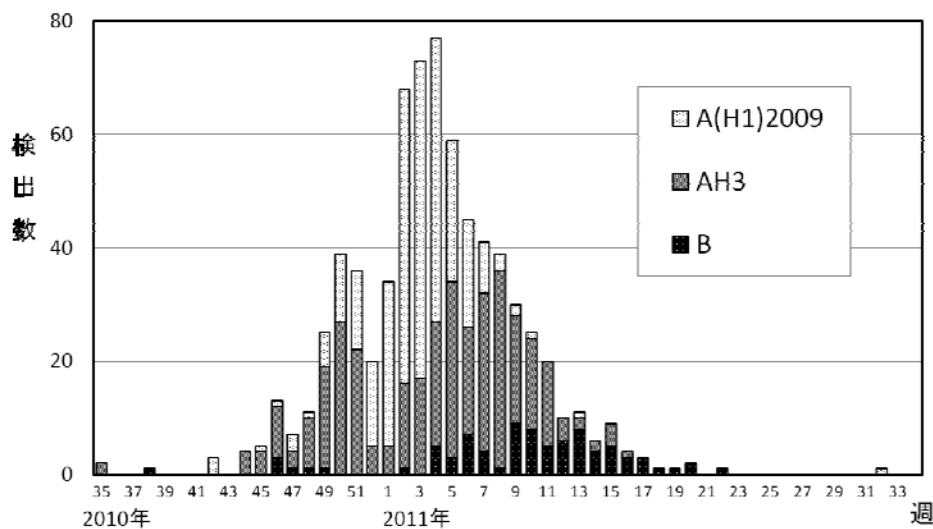


## インフルエンザ(2010/11 シーズン)

2010/11 シーズンの全国のインフルエンザ流行は、前半は AH3 亜型及び A(H1)2009\*ウイルスが主体となり、後半に B 型ウイルスが加わりました。県内でも同様の状況でした。下図に、昨年 9 月(2010 年第 35 週)から今年 8 月(2011 年第 34 週)までの県内でのインフルエンザウイルス検出状況を示しました。

※インフルエンザ(H1N1)2009 ウイルスの呼称は、WHO により「A(H1N1)pdm09」が提唱されていますが、本稿では従前の呼称にもとづき「A(H1)2009」と略記しています。2009 年の A(H1)2009 ウイルス出現以降、それ以前の AH1 亜型(ソ連型)ウイルスは姿を消し、A(H1)2009 ウイルスに置き換わった状況となっています。



週別インフルエンザウイルス検出状況(2010年9月～2011年8月)

2010/11 シーズンの県内の A(H1)2009 検出例 246 件についてオセルタミビル(タミフル)耐性変異の有無を調べたところ、7 件の耐性変異例が確認されました(埼玉県及びさいたま市、11 月 2 日現在)。全国的には 78 株(総解析数 3844 株中の 2.0%)の耐性ウイルスが確認されています(国立感染症研究所感染症情報センター、11 月 2 日現在)。

2009 年のパンデミックを除けば、近年のインフルエンザ流行には複数種類のウイルスが関与しています。今年 9 月以降もすでに県内では AH3 亜型及び A(H1)2009 が、県外では AH3 亜型及び B 型が検出されています。2011/12 シーズンが 2010/11 シーズン同様に 3 種類のインフルエンザウイルスによる流行となる可能性も考えられるため、今後の各型のウイルスの動向に注意が必要です。

病原体定点の先生方には、検体採取をよろしくお願いいたします。

インフルエンザに関する最新の全国情報は、国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ( <http://idsc.nih.go.jp/index-j.html> )でご覧になれます。